

# CASBEE® 京都-新築

## 標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)深草鈴塚町計画	階数	地上10F
建設地	京都府京都市伏見区深草鈴塚町6番7、6番8、6番9	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域、準防火地域	平均居住人員	196 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年2月 予定	評価の実施日	2019年11月5日
敷地面積	1,840.19 m <sup>2</sup>	作成者	一般建築士事務所 株式会社東洋設計事務所 代表取締役 森田 剛史
建築面積	827.42 m <sup>2</sup>	確認日	2019年11月7日
延床面積	4,101.66 m <sup>2</sup>	確認者	一般建築士事務所 株式会社東洋設計事務所 代表取締役 森田 剛史



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> 温暖化影響チャート	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 0.9</b> ★★☆☆☆☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆☆</p> <p>30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆</p> <p><b>標準計算</b></p> <p>①参照値: 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>②建築物の取組み: 82%</p> <p>③上記+②以外の: 79%</p> <p>④上記+: 79%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> Qのスコア = 2.7</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア = 3.1</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア = 2.6</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア = 2.4</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> LRのスコア = 3.1</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア = 3.3</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア = 2.9</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア = 3.1</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>全面的なF☆☆☆☆の採用、給排水配管において更新必要間隔の長い配管の採用など、室内環境に特化しています。</p>	<p><b>その他</b></p> <p>特になし。</p>	
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用し、化学汚染物質による空気質汚染を回避しています。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>給排水配管において更新必要間隔の長い配管を使用したり、維持管理しやすい設計となっています。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>特になし。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>特になし。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>特になし。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出率が一般的な建物と同等レベルです。 また、十分に駐車場を設けています。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される